



北陸信越運輸局

国土交通省 Hokuriku-shin'etsu District Transport Bureau

資料 3

Press Release



新潟国際情報大学

Niigata University of International and Information Studies

令和 5年 6月 22日

北陸信越運輸局交通政策部

新潟国際情報大学

物流を学び、守り、支える

～持続可能な物流の実現のために～

新潟国際情報大学の学生を対象に『物流講座』を開催します

北陸信越運輸局では、新潟国際情報大学と連携し、学生を対象とした物流講座を開催します。物流は、社会経済活動や人々の暮らしを支える重要な役割を担っていますが、「担い手の不足」や「2024問題」などの課題に直面しています。

一方、物流がどのようなものかを知る機会は少ないことから、「物流講座」を開催し、学生の皆さんとともに物流の現状や仕組み、重要性の理解を深めます。

【開催概要】

1. 日 時 令和 5年 7月 14日（金） 9:00～10:30（1限目）
2. 場 所 新潟国際情報大学 本校 みずき野キャンパス 140教室
（新潟市西区みずき野3丁目1番1号）
3. 講義内容
講座名 持続可能な物流の実現をめざして
講 師 北陸信越運輸局交通政策部 環境・物流課長 新田 明生
4. 取材のお申込み
取材ご希望の方は別紙申込書により7月12日（水）17時までにEメールでお申込み願います。

【お問合せ先】

交通政策部環境・物流課 新田

TEL 025-285-9152

【報道関係の皆さまへ】

取材のお申し込みは

Eメールによりお願いします。 〆切 7月12日(水) 17時

【送信先】

北陸信越運輸局交通政策部環境・物流課 新田 行き

E-mail : hrt-kankyoubuturyuu@mlit.go.jp

新潟国際情報大学

物流講座 「持続可能な物流の実現をめざして」 取材申込書

ご所属	
ご連絡先	TEL :
E-mail	
お名前	

※上記の内容をメール本文に記載いただくことでも構いません。

【取材に際してのお願い】

- 当日は、新潟国際情報大学 入試・広報課（管理研究棟玄関を入り左手）にて受付を行うことから、会場（140教室）へご移動をお願いいたします。
- 会場での取材方法に関するお問い合わせは、新潟国際情報大学 入試・広報課（TEL：025-264-3777（直通）、E-mail：nyushikouho@nuis.ac.jp）へお願いいたします。

物流分野における担い手確保の取り組み

物流分野の担い手不足への対応は、一般の皆さまにも「物流の重要性」をご理解いただくことも重要です。北陸信越運輸局では、JR貨物（日本貨物鉄道株式会社）金沢支店と共催し、わたしたちのくらしや経済活動を支える物流の仕組みやその施設の役割を一般の皆さんに知っていただくため、6月3日（土）「親子で楽しく学ぼう！物流現場」を開催しました。

今後も、より広く、一般の皆さまに対して、物流が果たしている役割やその危機的状況をお伝えし、持続可能な物流の実現のために、積極的に取り組みます。

【開催結果概要】

「親子で楽しく学ぼう！物流現場」

～環境にやさしい列車と船に乗って、「モーダルシフト」を学ぶ1日～

1. 日 時 令和 5年 6月 3日（土）
2. 参加者数 小学生とその保護者 21組57名
3. 主な内容

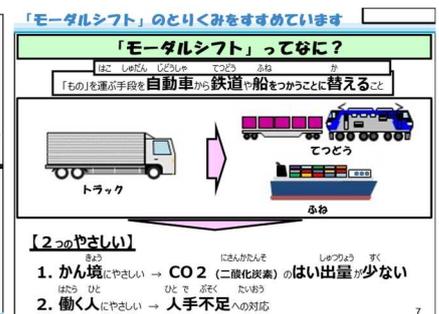
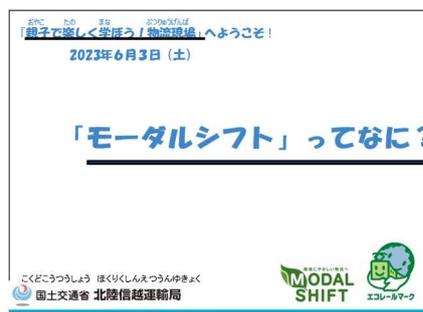
■ JR 高岡貨物駅の施設見学と体験（富山県高岡市）

機関車運転室の乗車体験や貨物を運ぶためのコンテナの種類の説明、貨物列車への積み込む（降り）フォークリフトによる荷役作業を見学。子供たちが作業スタッフへ積極的に質問をして疑問を解決、また、作業の正確さと技術の高さに驚きながら理解を深めました。



■ 【講義】「モーダルシフト」ってなに？（富山県高岡市：伏木コミュニティセンター）

貨物輸送手段をトラックから鉄道や船に切り替える「モーダルシフト」の説明を聞き、物流効率化や環境負荷の軽減を図るための取組みを学びました。



このほか、富山新港を運航する「富山県営渡船」の乗船体験や富山新港国際物流ターミナルコンテナヤードを見学しています。

4. 参加いただいた皆様からの感想

保護者の皆さまからのアンケート結果より

(アンケート：参加いただいた全21組に実施、19組よりご回答)

- ・子どもにも親にも良い勉強となった。
- ・貨物コンテナのことをいろいろ知ることができてとても良かった。
- ・子どもたちが強く興味を示していることが親から見てよくわかった。
- ・エコルールマークを覚えた。子供たちと買い物の際に探したい。
- ・何気なく食べていたおやつを違った角度からみて、環境を考えるきっかけとなった。
- ・モーダルシフトについて、鉄道、船での輸送の利点を初めて知った。
- ・モーダルシフトがドライバーの働き方改革につながるということに気づいた。

5. 協力等（順不同、敬称略）

特別協力：伏木富山港港湾運送事業協同組合、伏木地区コミュニティ協議会

後援：高岡市、射水市、公益社団法人鉄道貨物協会

【お問合せ先】

交通政策部環境・物流課 新田

TEL 025-285-9152